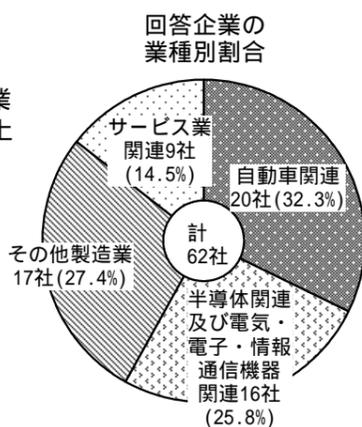


# 九州地域における進出企業の立地評価・ニーズに関する調査結果について

平成19年 8月 1日  
九州電力株式会社

## 1. 調査概要

- 対象企業 86社
  - ・新聞報道・各社公表資料等をもとに、九州に立地した企業で、原則として設備投資額10億円以上又は従業員50人以上の新增設を、概ね過去5年以内に実施した企業を抽出。
- 調査方法・回答数
  - ・アンケート調査: 有効回答数62社(回答率72.1%)
  - ・ヒアリング調査: 訪問企業数18社(アンケート回答62社中29.0%)
- 調査期間 平成19年3月～5月



## 2. 結果概要

### (1) 進出(増設)決定要因

進出決定に関する項目毎の重視度(図1)

- 進出決定に関する項目についてそれぞれの重視度を見ると、「雇用者数の確保」、「用地面積の確保」、「自治体の対応姿勢」、「用地の早期利用」、「電力インフラ」は、7割以上の企業が重視している。進出を検討する企業にとってこれらの項目がポイントとなるものと見られる。
- 一方で、「アジアへのアクセス」を重視した企業はアジアと取引関係がある一部の大手メーカーや物流関連企業などに限られた。また、「理工系・大卒学生の確保」については先端技術を取り扱う大手メーカーなどに限られた。

九州への立地を決定づけた項目(図2)

- 九州への立地を決定づけた項目は、「雇用者数の確保」が最も多く、次いで「製品納入先・販売先の存在」、「用地の価格」、「用地面積の確保」、「優遇制度の充実」となっている。
- 「雇用者数の確保」は進出企業が生産・現業部門の拠点としての九州の豊富な労働力に強いニーズを持っていることを示している。また、「製品納入先・販売先の存在」が挙げられているのは、九州における自動車産業を中心とする大手メーカー集積の進展が更にサプライヤー企業の集積を生む「集積が集積を呼ぶ」という状況を裏付けているものと見られる。

### (2) 現在の立地環境(事業環境)に関する満足度・問題点

九州の立地環境における評価(図3)

- 現在の立地環境については、「自治体の対応姿勢」、「用地の早期利用」、「用地面積の確保」、「電力インフラ」、「優遇制度の充実」など進出時に重視した項目で満足度が高く、九州の自治体の取組みや用地の利便性が高く評価されている。
- 一方で、「交通インフラ」、「雇用者数の確保」は重視されているにもかかわらず、満足していない企業も少なくない。

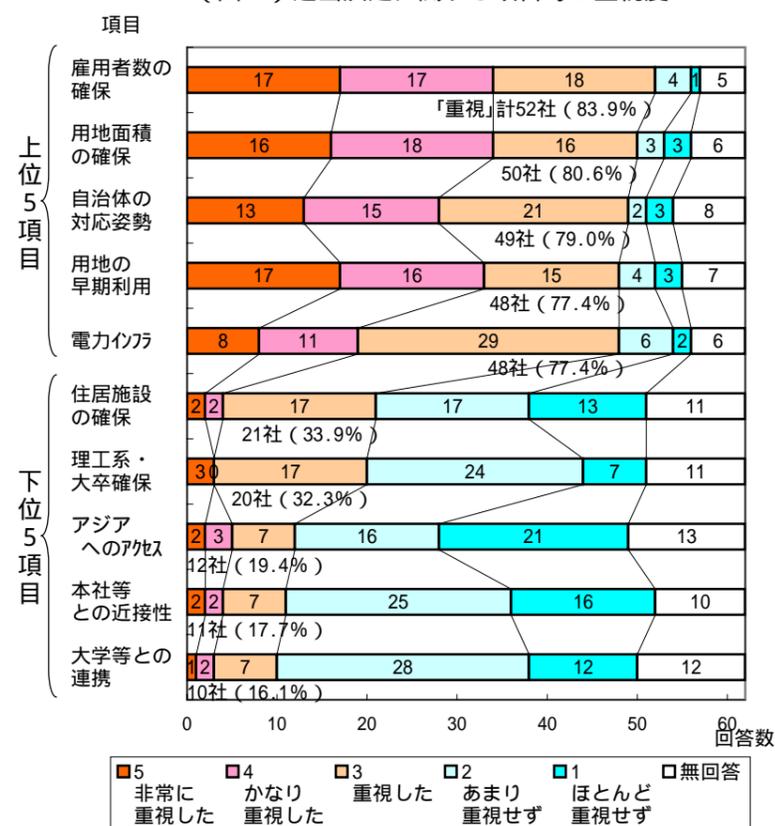
九州の立地環境上の問題点(図4)

- 現在の立地環境上の問題点としては、「交通」、「電力」、「情報通信」のインフラ、「雇用者数の確保」、「生活支援サービスの充実」、「原材料の確保、部品の調達」などが指摘されている。
- インフラ整備や部品供給体制の整備などの問題点が改めて示されたほか、雇用についても、同一通勤圏内での採用の競合や、交替勤務者の確保などの問題点が指摘されている。

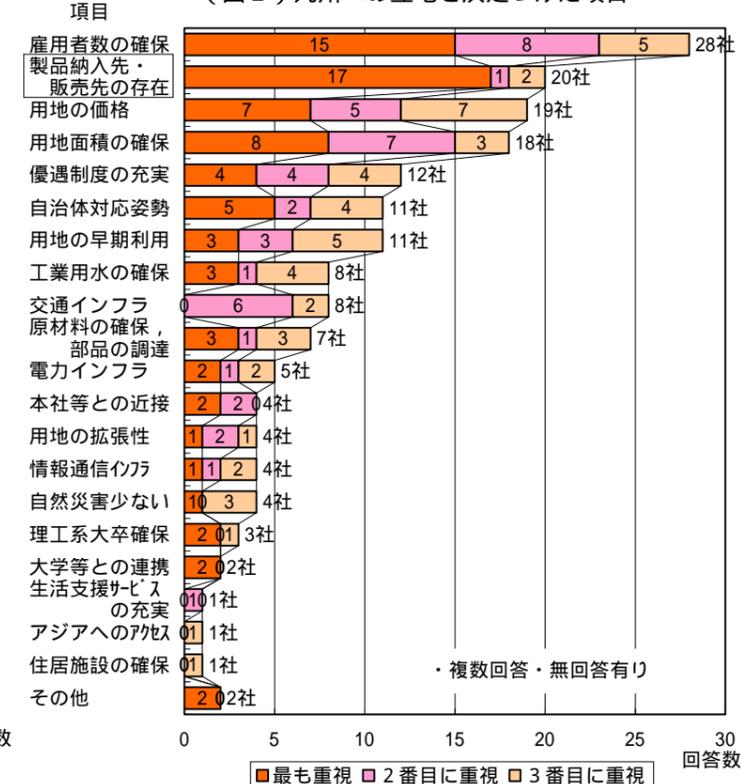
## 3. 今後の課題

- 今後の課題としては、高速道路網をはじめ一般道路・周辺道路など企業活動を支える基盤整備が急がれる。
- また、九州の強みとされる雇用面についても今後の確保の問題や質の面を指摘されており、九州の強みを一層増すためにも、今後とも人材育成や雇用環境の整備が必要と思われる。

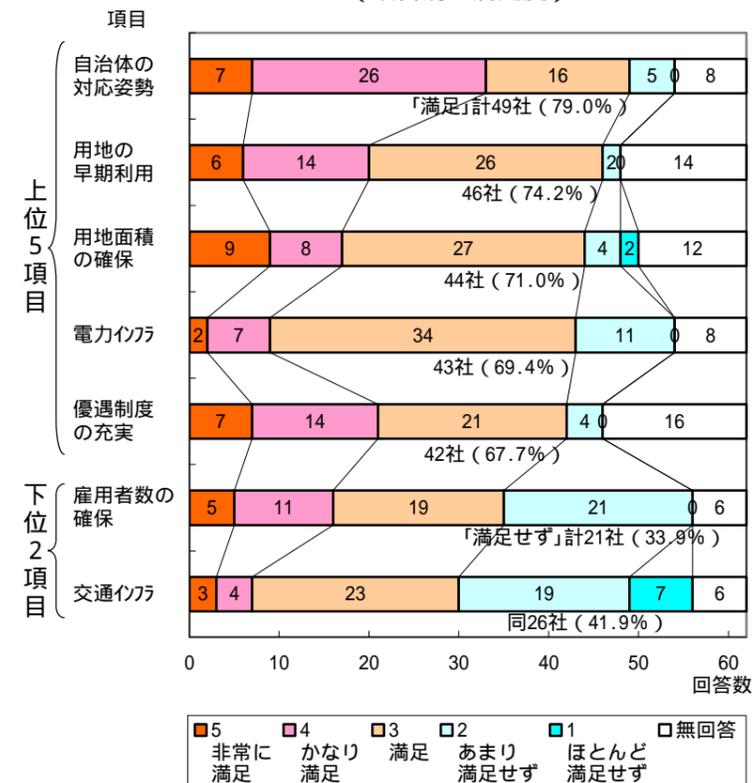
(図1) 進出決定に関する項目毎の重視度



(図2) 九州への立地を決定づけた項目



(図3) 九州の立地環境における評価(項目別の満足度)



(図4) 九州の立地環境上の問題点[5件以上の項目]

項目	件数	主な内容
交通インフラ	17	・(通勤向け等の)公共交通機関の整備不足 ・事業所周辺の道路渋滞 ・高速道路の整備不足(特に東九州自動車道)や雪害・霧害 ・地元港や航路の整備不足 ・高速道路や幹線鉄道へのアクセスが不便
電力インフラ	9	・雷による瞬時電圧低下・停電の発生
雇用者数の確保	8	・優秀な地元人材の確保が困難 ・定着性の低さ ・コールセンター競合による雇用確保難 ・交替勤務者の確保が困難 ・派遣社員のタイムリーな採用が困難
生活支援サービスの充実	7	・事業所周辺の飲食施設の不足 ・治安の悪さ ・宅配サービスの活用が困難
原材料の確保、部品の調達	6	・地場企業(自動車関連サプライヤー)の数が少ない ・品質・コスト等の条件を満たす地場企業が少ない ・輸入品調達において流通が不便
情報通信インフラ	6	・光ファイバー、高速ネット回線の整備不足
住居施設の確保	5	・寮・単身赴任者向けなど住居施設の不足
自然災害が少ない	5	・地震、落雷、台風、洪水への不安